

2022年度 後期

漢検 漢字文化研究所

連続講座 第10弾

聴講料(入館料込み)
 一般 各回 1,500円
 学生 各回 1,000円
 年パスをお持ちの方
 一般 各回 800円
 学生 各回 600円

東アジアの文字はいま

漢字と共通の文体を使えば筆談が可能だった東アジアが、第2次世界大戦のあと大きく様変わりしました。その変化と現状について、地域ごとに専門家がご紹介いたします。

開講日	テーマ
 10/16 (日)	ベトナムの文字—伝統と現代と 1945年ホーチミン主席の独立宣言を機に、ローマ字正書法クオックグーが一般民衆に広められます。その後、ベトナムの漢字文化はどのような道を辿っていったのか、画像資料などを用いてご紹介したいと思います。 大阪大学人文学研究科教授 清水 政明
 11/5 (土)	現代韓国文字事情 —‘見’するとハングルに覆いつくされたかの様を呈する朝鮮語世界。しかしながら、朝鮮語の中には日本語と同様、豊富な漢語が息づいています。‘漢字の(ほとんど)見えない漢字圏言語’とは、日本語世界に暮らしていると想像が付きにくいかもしれません。そのような朝鮮語世界における漢字、漢語の在り方について、考えてみましょう。 京都産業大学外国語学部准教授 杉山 豊
 12/17 (土)	京都漢字巡り—生き物の字を中心に— 京都の石碑や看板などに見られる漢字、特に生き物に関する字を紹介するとともに、その由来や背景について考えてみたいと思います。 漢字文化研究所研究員 伊藤 令子
 1/21 (土)	方言を漢字で書く—香港の漢字 同じ中国語とはいえ、共通語とは大きく異なる言語(広東語)が行われている香港ですが、書き言葉は基本的に中国語であり、表記には漢字が用いられています。ただし、ときに広東語が直接書かれることもあり、全体として混沌とした状態が定着しています。今回はそのあたりを中心に紹介したいと思います。 大阪大学人文学研究科准教授 鈴木 慎吾
 2/19 (日)	中国の漢字事情 —規範と混乱 1950年代から国策として推進された漢字簡略化の歩みを概観し、それが改革开放路線や電子機器との関係などから、時に揺れ動いてきた様子を写真によって提示いたします。 漢字文化研究所所長 阿辻 哲次
 3/26 (日)	地域の個性を表す日本の方言漢字 日本列島ではたくさんの漢字が使われていますが、よく観察すると方言と同じように北海道から沖縄まで、その地域独自の漢字が使われていることに気がきます。昔から今に至る全国各地の面白い実例をご紹介したいと思います。 早稲田大学社会科学総合学術院教授 笹原 宏之

時間は各回とも
14:00~15:30

※新型コロナウイルス感染予防の観点から、受講者の定員を30名(先着順)とします。
 受講のお申し込みは開講日の1週間前からお電話にて受け付けます。
 ※当日の講座の様子を録画し、後日動画配信サイトに配信します(有料)。

申込み・問い合わせ先
 電話:075-757-8686
www.kanjimuseum.kyoto